

軟式野球 A 級リーグにおける得点圏への進塁方法についての一考察

袋本 廉 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 北村 哲

キーワード：軟式野球，得点，進塁方法

1. 緒言

現在の社会人軟式野球において，硬式野球経験者が軟式野球を始めた際，大抵の者が「打てない」と口にする．軟球は球の特徴として，柔らかくて潰れやすく，軽くて反発係数が少ない．多くのスラッガーでも飛ばすのは容易でなく，不規則な潰れ方により，素直に飛ばない事が挙げられる．これにより，軟式野球の場合，硬式野球に比べ，1点を取ることが困難であると考えられる．よって，必然的に長打，連打よりもバントや盗塁といった小技を駆使した戦い方が有効的であると考えられる．

本研究は，著者が所属する滋賀県軟式野球チーム A 級リーグに着目し，進塁方法がどのように使われ，どれだけ得点に影響しているか明らかにすることで，著者が所属しているチームに効率の良い得点方法，戦術の実践により，勝てるチームを作ることを目的とする．

2. 研究方法

1) 対象

滋賀県軟式野球 (湖南支部) A 級リーグに所属する野球チーム R が出場した 2014 年度の支部予選，県大会における全 10 試合を対象とした．

2) 分析内容

- ①進塁作戦遂行時のアウトカウント
- ②進塁作戦方法 (送りバント，盗塁，エンドラン)
- ③得点期待値 (ケース発生からイニング終了までに入る得点の期待値)

3) 分析方法

進塁作戦別の得点期待値について，単純集計により，比較検討した．

3. 結果と考察

送りバント戦術の得点期待値は 0.80，送りバン

トなしの時の得点期待値 0.33 とい比べて非常に高い．盗塁の戦術では，盗塁なしの得点期待値 0.25 に比べて，盗塁ありは 0.92 と圧倒的に得点期待値が高く，送りバント，盗塁，エンドランの作戦の中でも得点期待値が最も高い．エンドランの戦術は，作戦遂行ケースは送りバント，盗塁に比べると少ないが，0.80 という得点期待値があることから，成功させると得点を望めるが，打者と走者の状況，点差によって使い分けが必要である．

表1アウトカウント別の送りバントの得点期待値

	バントあり	バントなし
無死	0.86	0.40
1死	0.66	0.25
全体	0.80	0.33

表2アウトカウント別の盗塁の得点期待値

	盗塁あり	盗塁なし
無死時	1.40	0.00
1死時	0.83	0.50
2死時	0.33	0.00
全体	0.92	0.25

表3アウトカウント別エンドランの得点期待値

	エンドランあり	なし
無死時	0.66	0.33
1死時	0.85	0.25
2死時	0.00	0.00
全体	0.80	0.28

4. まとめ

「バント」，「盗塁」，「エンドラン」の結得点期待値について，アウトカウントに関係なく作戦を遂行した時の方が得点期待値は高く，軟式野球において上記の作戦は有用である．

5. 主な引用参考文献

及川研，栗山英樹，佐藤精一 (2011) 野球の無死 1 塁で用いられる送りバント作戦の効果について．コーチング学研究 Vol. 24 (2) : 119
及川研・佐藤精一 (2006) 送りバントをした場合としない場合の得点期待値の差異について - 軟式野球 (A 級リーグ) を対象として - ．東京学芸大学紀要芸術・スポーツ学科系，58 : 123 - 128